

モンゴル語訳ツォンカパ全集の二つの版

ARILDII BURMAA

はじめに

ツォンカパ・ロサンタクパ (tsong kha pa blo bzang grags pa, 1357-1419) は、チベット仏教の最大宗派ゲルク派の開祖であり、ダライ・ラマ5世によるダライ・ラマ政権が確立して以降、近隣の民族や国において広く尊崇された高僧である。歴代のダライ・ラマによる中央アジア・東アジアへの影響力は極めて強く、「チベット仏教世界」が政治的な体制を超えて形成された。特にモンゴルとの関係は密接であり、現在でもモンゴル仏教はチベット仏教と一体化して広く民衆の中に浸透している。

ツォンカパの主著は、仏説のすべてを体系的・段階的に詳説した『菩提道次第大論』⁽¹⁾である。この著作は、ツォンカパの主著であるだけでなく、チベット仏教を代表する名著でもある。そのためモンゴル語訳は数回試みられてきた。今回、筆者の調査では5種類⁽²⁾のモンゴル語訳が確認された。訳者と翻訳の時期を挙げると次のようになる。⁽³⁾

- (1) アルタンゲレル・ウバシ⁽⁴⁾訳 (1655)
- (2) ザヤ・パンディタの弟子であるダギ⁽⁵⁾訳 (1662-1670)
- (3) ウラドのメルゲン・ラブジャムバ⁽⁶⁾訳 (17世紀後半)
- (4) 『ツォンカパ全集』所収の⁽⁷⁾訳 (1730～1749年頃)
- (5) ガブチ・スディ⁽⁸⁾訳 (1812)

このうち、(4)の『菩提道次第大論』を含むツォンカパ全集には、ほぼ同じ時期の二つの版が存在するが、それらの版の成立の状況や内容の異同については研究がない。モンゴル語訳ツォンカパ全集の研究に際してまず諸版本の全体像を把握しておく必要がある。本稿は、現在確認できるモンゴ

ル語訳ツォンカパ全集の二つの版について、その現存する巻と、二つの版の関係、現存する目録の比較検討、それぞれの版の異同などの文献学的な調査結果を提示することを通じて、モンゴルにおけるチベット仏教の受容形態の一端を明らかにすることを目的とする。

モンゴル語訳ツォンカパ全集の二つの版のうち、一つは北京版西藏大蔵經に付属するツォンカパ全集をモンゴル語訳したもので、モンゴル語訳北京版テンギユルに含まれる。北京版西藏大蔵經は、清朝の雍正帝によって1724年に刊行されたが、そのモンゴル語訳大蔵經は次の乾隆帝によって1749年に刊行された。これらはいずれも赤いインクで印刷されているので、以下、赤字全集と呼称する。

もう一つは、同じ北京で1730年代後半に刊行されたモンゴル語訳ツォンカパ全集である。その奥書を見れば、清朝時代の外モンゴルと内モンゴルのノヤドつまり、地域のリーダーたちが一緒になって、ツォンカパ全集の翻訳をし、木版にしている。これは通常の黒字で印刷されているので以下、黒字全集と呼ぶことにする。纏めるならば、以下の通りである。

- (1) 乾隆帝により1749年に北京で刊行されたモンゴル語訳北京版テンギユル所収ツォンカパ全集（赤字全集）
- (2) 1730年代後半に翻訳され、北京で刊行された単独のモンゴル語訳ツォンカパ全集（黒字全集）

1. 書誌情報

黒字全集については、Γanjuur Danjuur (2014) の影印版により全20巻のうち第2巻と第8巻以外が刊行されている。モンゴル語北京版大蔵經がΓanjuur Danjuur (2014) で複製出版されることになった時、本来の赤いイ

ンクで刷られた北京版のチャンキヤ全集とツォンカパ全集が紛失していたため、黒字のチャンキヤ全集とツォンカパ全集をコンピューターで赤字の版面に加工して刊行した。黒字全集は、欠本を含むものが2箇所所蔵されている。

① 内モンゴル自治区フフホトの内蒙古図書館

② ロシアのサンクトペテルブルグ大学図書館

内モンゴル自治区フフホトの内蒙古図書館所蔵黒字ツォンカパ全集目録は Catalogue of Ancient Mongolian Books (1999) に、ロシアのサンクトペテルブルグ大学図書館所蔵黒字ツォンカパ全集目録は Catalogue of Uspensky, Inoue (2001)⁽¹⁰⁾ にそれぞれ記載されている。それらによると、内蒙古図書館所蔵のツォンカパ全集は、第2巻と第8巻が欠けており、サンクトペテルブルグ大学図書館所蔵のツォンカパ全集は、第3、7、10、19、20巻が欠けているが、これらを合わせれば全巻が揃うことになる。

Ганжуур Данжуур (2014) はモンゴル大蔵經の複製出版である。その出版の際に、サンクトペテルブルグ大学図書館に、不足している第2巻と第8巻の提供を依頼した。しかしながら、その交渉が実と結ばず、第2巻と第8巻が欠けたまま複製出版された。

一方、テンギユル付属の赤字全集は、全20巻のうち9巻のみが京都大学大学院文学研究科附属の羽田記念館に保存されている。それは、ツォンカパ全集の第2巻(234フォリオ)、第4巻(370フォリオ)、第5巻(344フォリオ)、第10巻(1フォリオ片面のみ)、第12巻(353フォリオ)、第14巻(1フォリオ片面のみ)、第16巻(259フォリオ)、第18巻(327フォリオ)、第20巻(276フォリオ)の9巻である。その第20巻に目録(11フォリオ)が付いている。第10、14巻は、1フォリオのみの不完全な巻であるので、実質的に残っているのは7巻のみである。

また、『菩提道次第大論』は北京版テンギユル目録中のトゥケン著ツォ

ンカパ全集目録においては、ka（第1）巻と kha（第2）巻に分かれているが、黒字ツォンカパ全集の目録においては ka（第1）巻の上巻と下巻になっている。その形式を持つ黒字ツォンカパ全集第1巻が東洋文庫に3セットある。No.MO2-07-11 と No.MO2-07-13 と No.MO2-07-16+24（No.MO2-07-16 は三士の章、No.MO2-07-24 は止観の章であるが、別々に登録されている）の番号で登録されており、内モンゴル大学図書館に No.49.3/22 が一つ保存されている。ツォンカパ全集第1巻と記されているが、4つとも断片的な木版である。羽田記念館所蔵赤字全集には『菩提道次第大論』に当たる第1巻がなく、第2巻が『菩提道次第小論』であることから黒字全集と同じ配列であることが分かる。

2. 北京版西藏大蔵経とチャンキャ全集・ツォンカパ全集

北京版西藏大蔵経は、元来インド人の著作のみが収録されていたチベット語大蔵経に、雍正帝（1678-1735）の勅令によってツォンカパとチャンキャ2世（ngag dbang blo bzang chos ldan, 1642-1715）の全集が加えられた。

ダライラマ3世をモンゴルに迎えたアルタン・ハンの子の時代にまず全カンギュルと、テンギュルの一部がモンゴル語に翻訳され、満洲人が中国を征服して建てた清朝の最盛期に乾隆帝（1711-1796）の命令によって、全テンギュルをモンゴル語に翻訳してモンゴル語訳北京版大蔵経が開版された。⁽¹²⁾ 1749年、乾隆帝はモンゴル語訳テンギュルに序文を書き、満洲語、モンゴル語、漢語による同一内容の文章を残している。

egün-i tngri-yin tedkügsen-ü jirγuduγar on-u čaγaγčün takiy-a jil ebül-ün
segül sar-a-ača egüsgejü üiledtüged, naiman jil ilegüü bolču. sirayčün moyai

jil-ün zun-u terigün sar-a-dur kürtel-e tegüsbei. tangyud-un jalyamjilaju
 üiledtügsen danjur nom qoyar jayun qorin tabun kelmeli. bügüde naiman
 tümen tabin yisün qayudasu. mongyul-iyar orčiyluyusan anu. arban tümen
 naiman mingyan arban jiruyyan qayudasu. basa uridu törül-ün jangkiy-a qutu
 ytu-yin ijayur jokiyaysan süngbüm nom doluyan debter-i oluyad. biligtü nom-
 un qan-u bariysan sir-a-yin šasin-u uγ blam-a bzovangkhaba-yin jokiyaysan
 süngbüm nom qorin debter selte-yi yeke danjur nom-dur oruyulju seyligeged
 keb daruyuluyad. tarqayaju tungqalabai.

[Catalogue of Γaṅjuur Danjuur (1749) 御製統藏經序 2b2-27]

これは乾隆6年(1741)、辛酉年の冬の最後の月から作業が始まり、
 8年少しかかり、己巳年(1749)の夏の初月までに完成した。チベッ
 ト人が相承し、作成したテンギユルは、225巻全部で8万59フォリオ、
 さらに前世のチャンキャ・ホタクトの著作した全集7巻を収録し、ビ
 レグト・ノムン・ハンの依頼した黄教の開祖ラマであるツォンカパの
 著作した全集20巻を偉大なるテンギユルに収録し、彫り起し、木版
 にして、広く公布した。

つまり、モンゴル語訳テンギユルを完成させるのに、乾隆6年である
 1741年から1749年まで8年間かかったこと、テンギユルは、225巻全部
 で8万59フォリオ、さらにチャンキャ2世の全集7巻と、ビレグト・ノ
 ムン・ハン(biligtü nom-un qan, 1701-1768)の依頼でツォンカパ全集20巻
 をテンギユルに収録させて、木版を作成させたことが述べられている。⁽¹³⁾こ
 れは、チベット語テンギユル自体と同様、赤字で印刷されている。

3. 二つのモンゴル語訳ツォンカパ全集

モンゴル語訳北京版テンギユルにツォンカパ全集が収録されるよりも前に、北京で黒字のツォンカパ全集が開版された。

ツォンカパ全集の翻訳年代を推測するため、翻訳年代が明確に書かれている第5巻と第18巻の奥書を見てみる。黒字全集の第5巻の奥書から引用する。

tangyud bičig-ün ded suryaγuli-yin bayši böged long pu se kemegdekü yeke
kiyid-ün, terigülegsen jaṣaγ blam-a güüşrii danjin čoyidar gelüng ber tngri-
yin tedkügšen-ü γutaγar on čeyider sar-a-ača ekileged qoyitu dötüger on
burqan bayši eke-yin umai-dur öged boluγsan, tusa бүтүгсн kemekü siroi
em-e qonin jil-ün, түгемел ridi qubilγan үжүгүлүгсн maga kemekü qabur-
un terigün sar-a-yin tunumal delger edür-e orčiγulju daγusγad sigüüjü
tegüskebei.

[Γaṅjuur Danjuur (2014) 宗5巻 pp. 332-333; ča (Tib. tsha) 334b9-26]

チベット語の副学科の先生であり、ロンプセ (long pu se) 大寺の
管長のジャサク・ラマである国師テンジン・チューダル・ゲロンが乾
隆3年である戊午年(1738)の正月(Tib. tshes gtor, Mong. čeyider)か
ら始め、次の年である乾隆4年である「釈尊が胎内に宿って利益が成
就した」と言う己未年(1739)の「奇跡を見せた」春の初月である1
月の晴れた日に翻訳し、修正して完成させた。

このツォンカパ全集の第5巻所収の著作の題名は、『入中論釈・密意
解明』(Mong. töb-tür oruqu-yin aqui yeke nomlal taγalal-i masi geyigülügči

kemekü) であるが、その翻訳者はテンジン・チューダル・ゲロン (Mong. danjin čoyidar gelüng) であり、翻訳年代は 1738 年から 1739 年であることが確認できる。続いて、翻訳年代が書かれているツォンカパ全集の第 18 巻のページの最後に「出版年は大清乾隆三年春日立 (1738)」と漢語で記している。

第 5 巻に 1738 年から 1739 年、第 18 巻に 1738 年と翻訳年代が書かれていることから、おそらく黒字の全集は 1730 年代後半までに翻訳されたと推測される。

4. 北京版大蔵經収録モンゴル語訳 赤字ツォンカパ全集の目録

モンゴル語訳北京版テンギユルには、目録部とツォンカパ全集最終第 20 巻とに二つのモンゴル語訳ツォンカパ全集目録が収録されている。前者は、Gaṅjuur Danjuur (2014) の目録巻に収録され、後者は、羽田記念館に所蔵されているツォンカパ全集のうちの第 20 巻に入っている。

現在の北京版モンゴル語訳テンギユルは以下の 3 箇所の一部ずつ現存している。

- (1) モンゴル国立図書館 (完全な目録を伴う)
- (2) 内蒙古図書館 (目録が不完全)
- (3) 内蒙古社会科学院図書館 (目録が不完全)

目録巻において、北京版にチャンキャ 2 世全集 7 巻とツォンカパ全集 20 巻を追加したと雍正帝序文⁽¹⁴⁾、乾隆帝序文⁽¹⁵⁾、トゥケン著の目録である『新增百千法語序』⁽¹⁶⁾の序疏に書かれているが、現存するモンゴル語訳テンギユ

ルは三つともツォンカパ全集とチャンキャ 2 世全集を欠いている。

ツォンカパ全集とチャンキャ全集がテンギェルに収録されたのは、雍正帝の時代にチベット語での北京版大蔵経が編集された 1724 年である。

tegün-ü yeke törü-yi erkesigülčegsen boyda nayiraltu töb qayan, temdegtey-e burqan-u šasin-i ĵalyamĵilan delgeregülkü tuyil-un örüsiyel-iyer, degedü ilayuyusan boyda bzonkhapa sumadi kiiriti-yin 'bum ĵarliĵ kiged, tengsel ügei ačitu vakindr-a sumadi dharm-a blam-a 'bum ĵarliĵ selte-yi keb-tür seyilgeĵü da a 'gyür erdeni luy-a qamtuda orusiĵulqui-dur ketürkei ilayuyusan tabdayar gegen-u ĵokiyayusan qayučin tuy-a bičig ba, gegen uqayatan-u küčükün-ü čimeg üĵesgüleg cindamani-yin erike kemegdekü sin-e tuy-a bičig seltin-i. kelkü mongĵul-un ayalu-bar yeke gyesgüs büged töbed sur ĵayuli-yin bayši terigün blam-a dgyeslong bgdan gčin čosdar, dgyeslong gdbeng puncoys qoyar orčiĵulbai.

[Catalogue of Ĵanĵuur Danĵuur (1749) 黄教初祖百千法語総目 27b12-26]⁽¹⁷⁾

その偉大な〔国家〕政治を仕切ったボグダ雍正帝が、間違いなく仏教を継続して広める究極の慈心で、最大の勝者であるボグダ・ツォンカパ・スマディ・キルティの全集と無比の御恩あるワキンダラ・スマディ・ダルマの全集などを木版に彫らせ、テンギェル (da a 'gyür) と共に設置する際に、勝者ダライ・ラマ 5 世の古い目録と、『明慧の力の莊嚴である美しい如意宝珠』という新しい目録を、口語モンゴル語によって大責任者 (gyesgüs) チベット学校の先生のラマの長であるゲロン・テンジン・チューダル (bstan 'dzin chos dar)、ゲロンのツェワン・プンツォー (tshe dbang phun tshogs) の二人で翻訳した。

雍正帝は、ツォンカパ全集とチャンキャ 2 世全集の木版を作らせ、テン

ギェルと共に刊行した。その際、トゥケンが『黄教初祖百千法語総目』という新しい目録を作成し、それをダライ・ラマ5世のテンギェル目録と共に、ゲロン・テンジン・チューダル (bstan 'dzin chos dar) とゲロン・ツェワン・プンツォー (tshe dbang phun tshogs) の二人でモンゴル語に翻訳したとある。

ただし、大谷大学所蔵北京版大蔵経においては、トゥケンが著した目録のチベット語原文は目録巻の北京版大蔵経第332巻に入っていない。大谷大学所蔵北京版大蔵経テンギェル目録では、1724年の『黄教初祖百千法語総目』⁽¹⁸⁾のモンゴル語訳だけがある。そのチベット原文は、Fanjuur Danjuur (2014) の目録巻である Catalogue of Fanjuur Danjuur (1749) から知ることができる。

5. モンゴル語訳ツォンカパ全集の目録の比較

現存するツォンカパ全集目録を比較してみる。大蔵経の北京版テンギェル収録の赤字ツォンカパ全集が不完全なため北京版大蔵経を Fanjuur Danjuur (2014) において複製する際に、黒字のツォンカパ全集を利用したことは、上述した。従って、Fanjuur Danjuur (2014) における、黒字ツォンカパ全集の第20巻も目録を伴うものである。それらの、目録を比較する。

モンゴル語によるツォンカパ全集目録は2種類である。

- (1) 北京版テンギェル目録巻におけるツォンカパ全集目録
- (2) モンゴル語訳ツォンカパ全集の目録

2種類の目録にそれぞれ二つの木版が存在する。以下4点である。

- (1a) チベット語北京版テンギェル目録巻におけるツォンカパ全集目

録（1724、モンゴル語のみ閲覧可能、以下「チベット語テンギェル付属目録」と省略）

(1b) モンゴル語訳北京版テンギェル目録巻におけるツォンカパ全集目録（1749、チベット・モンゴル語で閲覧可能、以下「モンゴル語テンギェル付属目録」と省略）

(2a) 「黒字全集目録」⁽¹⁹⁾（1730 年代、モンゴル語のみ）

(2b) 「赤字全集目録」（1749、モンゴル語のみ）

黒字全集と赤字全集は、第 20 巻が目録を含んでいる。両者、つまり「黒字全集目録」と「赤字全集目録」は、内容は同一であるが、別に彫られた木版である。「黒字全集目録」は、Γanjuur Danjuur (2014) のツォンカパ全集の第 20 巻で閲覧可能であり、「赤字全集目録」は羽田記念館に所蔵するモンゴル語北京版テンギェル収録ツォンカパ全集の第 20 巻に入っているもので閲覧可能である。「チベット語テンギェル目録」⁽²⁰⁾は、大谷大学所蔵北京版大蔵經の目録巻である第 332 巻において閲覧できる。ただし、チベット語原文は欠除している。これと同じ種類の「モンゴル語テンギェル付属目録」は、Γanjuur Danjuur (2014) の目録巻に収録されており、チベット語およびモンゴル語により閲覧可能である。その奥書から分かることは、以下である。

[...]ces bstan 'gyur rin po che'i dkar chags blo gsal mgul rgyan tsin da ma Na'i 'phreng mdzes zhes bya ba 'di ni ho sho'i bzang sog po'i khrim ra'i as han am pa gong ma'i blon chen bkra shis dang // lugs gnyis kyi mkhyen dpyod 'das shing nyims len la rtse gcig tu brtson pa phu'u yig bla ma shes rab rgya mtsho gnyis kyis 'di lta bu zhig gyis zhes bskul ba ltar btsun gzugs snyoms las pa ngag dbang chos rgya mtsho zhes bgyi bas rgyal khab chen po pe'i

cing gi tsan dan jo bo'i lha khang du sbyar ba⁽²¹⁾

(Catalogue of Ganjuur Danjuur (1749) テンギユル付属目録 22b2-5)⁽²²⁾

以上の『丹珠爾目録・智者頂飾・如意珠美鬘 (bstan 'gyur rin po che'i dkar chag blo gsal mgul rgyan tsinta ma Ni'i 'phreng mdzes)』というこれは、旗における外モンゴルの全国の政治的管理局の大使、上の大臣であるタシと、〔政教〕二規の智慧をそなえ、実践に専念している印鑑管理者のラマであるシェーラブ・ギャムツォの二人がこのように作成してくださいと依頼した通りに、仕事が遅い僧ガワン・チューキ・ギャツォが王国の首都北京の梅檀寺の仏殿で編纂し…

目録の依頼者がタシ (bkra shis) とシェーラブ・ギャツォ (shes rab rgya mtsho)、目録作成者はガワン・チューキ・ギャツォ (ngag dbang chos kyi rgya mtsho)、作成された場所は北京の梅檀寺 (tsan dan jo bo) であることがわかった。ここで言う作成者のガワン・チューキ・ギャツォは、トゥケン2世 (1680-1736) のことである。それから、このトゥケン作の目録である『黄教初祖百千法語総目』は、題名が『明慧の知の力の莊嚴である美しい如意宝珠』である。

上述したように「チベット語テンギユル付属目録」は、北京版チベット大蔵經の 332 巻にモンゴル語訳のみが収録されている。従って、内容が同一な別の木版による「モンゴル語テンギユル付属目録」を「黒字全集目録」と比較する。

「黒字全集目録」と「モンゴル語テンギユル附属目録」は、後述する若干の配列の違い以外は内容が一致するものである。まず二つの目録において第 10 巻と第 16 巻が入れ替えられている。すなわち、「モンゴル語テンギユル付属目録」において、2 作から成り立つ tha (第 10) 巻が、内容

は同一であるが「黒字全集目録」においては、*ma*（第16）巻となり、逆に「黒字全集目録」の *tha*（第10）巻が「モンゴル語テンギユル付属目録」では *ma*（第16）巻となっている。

羽田記念館に所蔵するモンゴル語北京版テンギユル収録ツォンカパ全集の第16巻、つまり赤字全集の実物を閲覧したところ、「黒字全集目録」の配列通りに「*ma*」の第16巻となっていた。また、*ba*（第15）巻に関しては、「黒字全集目録」において、3作が抜けている。テンギユル付属目録第15巻における以下の3作である。

第4番 *rgyud kyi rgyal po dpal gsang ba 'dus pa'i rim lnga gdan rjogs kyi dmar khrid*⁽²³⁾

第5番 *gsang ba 'dus pa'i zhal shes yig chung thor bu pa*⁽²⁴⁾

第6番 *bsre dang 'pho ba'i gdam ngag*⁽²⁵⁾

上記以外は、順番通りになっている。また、*tsha*（第18）巻に関しては、作品の順番が変わっただけで作品の数は一致している。

北京版テンギユル収録の赤字全集は、この二種の目録の何方に従っているかを次に確認する必要がある。この二種の目録において、作品名が異なる例が数多くあり、若干ではあるが配列の差が見られるからである。

赤字全集の実物は、9巻のみが羽田記念館に保存されていることについて上述した。その9巻は、黒字全集と木版が違うのでフォリオ数の差があるだけで、やはり「黒字全集目録」の配列に沿う同様な内容であった。つまり、モンゴル語北京版テンギユルは、黒字ツォンカパ全集をもう一回木版を彫り直し、収録したということになる。

以上をまとめると、次のようになる。

- ・「黒字全集目録」と「赤字全集目録」は全く同じ目録であり、「赤字全集」は「黒字全集」をもとに彫り直されている
- ・「モンゴル語テンギユル付属目録」と「チベット語テンギユル付属

目録」は内容が同じであり、チベット語の目録をもとにモンゴル語に訳された

おわりに

赤字のモンゴル語訳ツォンカパ全集は、黒字全集をもとに木版を彫り直したものであり、内容に関しては同じものと考えられる。つまり、モンゴル語訳ツォンカパ全集は、版違いの1種類である。

モンゴル語訳ツォンカパ全集の配列順は、その他のチベット語によるツォンカパ全集の配列順とは違っており、北京版テンギユルの編集の際にトゥケンが著した目録からも、チベット語による北京版テンギユルの配列順に基づくことは明らかである。モンゴル語訳北京版収録ツォンカパ全集の目録はチベット語北京版テンギユルの目録をモンゴル語翻訳したものである。したがって「黒字全集目録」と「モンゴル語テンギユル附属目録」が異っている理由は、「モンゴル語テンギユル附属目録」は1724年チベット語北京版テンギユル目録中のトゥケン著ツォンカパ全集目録『黄教初祖百千法語総目』のモンゴル語訳である「チベット語テンギユル附属目録」をそのまま再録したものである。

参考文献

- 福田洋一、石濱裕美子（1986）『西藏仏教宗義研究 第四巻：トゥカン『一切宗義』モンゴルの章』
- Alice Sarközi (2018) *Sumatiratna Tibetan-Mongolian Explanatory Dictionary with English Equivalents and Index of Mongolian Words*. Ulaanbaatar: Published by The International Association for Mongol Studies, Classical Mongolian Studies-I.
- Catalogue of Ganjuur Danjuur (1749) *Mongγul Ganjuur Danjuur-un foto keblel. γarčiy boti. Kökeqota: Öber Mongγul-un arad-un keblel-ün qoriy-a* 2014.

Catalogue of Ancient Mongolian Books (1999) By the Editorial Board of Catalogue of Ancient Mongolian Books and Documents of China. *Catalogue of Ancient Mongolian Books and Documents of China Vol.I, II, III*. Beijing: Beijing Library Press.

Catalogue of Tohoku (1953) Yensho Kanakura Ed. *A Catalogue of The Tohoku University Collection of Tibetan Works on Buddhism*. Published by The Seminary of Indology Tohoku University.

Catalogue of Peking Edition (1962) Edited by Dr. Daisetz, T. Suzuki. *Catalogue Tibetan Tripitaka Peking Edition*. — *Kept in the Library of the Otani University, Kyoto*. — *Reprinted under the supervision of the Otani University*. Tokyo: Suzuki Research Foundation.

Catalogue of Uspensky, Inoue (2001) Uspensky, Vladimir L, Osamu Inoue. Edited by Tatsuo Nakami. *Catalogue of the Mongolian Manuscripts and Xylographs in the St. Petersburg State University Library*. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultural of Asia and Africa.

Fanjuur Danjuur (2014) 『モンゴル語訳北京版大蔵経』 Mongyul *Fanjuur Danjuur* (1749)-un foto keblel. Kökeqota: Öber Mongyul- un arad-un keblel-ün qoriy-a. 北京版大蔵経の複製出版内モンゴル民族出版部 フフホト

- (1) *tsong kha pa blo bzang grags pa'i dpal: lam rim chen mo. rje tsong kha pa'i gsung 'bum, zhol par ma,pa*. Catalogue of Tohoku (1953) No. 5392.
- (2) 筆者は、『菩提道次第大論』のモンゴル語訳について、モンゴル国立図書館、内モンゴル図書館、サンクトペテルブルグ図書館、大谷大学図書館、京都大学図書館、北京の故宫博物院図書館で資料調査を行った。
- (3) 『菩提道次第大論』のモンゴル語訳の詳細については、別稿を準備している。
- (4) 管見のかぎりでは、アルタンゲレル・ウバシ (Altan gerel ubasi) 訳は、写本 (378 フォリオ) であり、モンゴル国立図書館 (No.4049/96) にのみ所蔵されている。おそらく、その一か所にしか現存しないものと思われる。
- (5) ザヤ・パンディタの弟子であるダギ (Rab 'byams Ja ya-yin ečüs šabi Daki) 訳は、トド文字によるものである。
- (6) ウラドのメルゲン・ラブジャムバ・クンガーギャツォ (mergen Rab 'byams pa Kün dga' rgya mtsho) 訳の原本は、内モンゴル仏教協会図書館に所蔵されている。

- (7) この訳は、ツォンカパ全集所収のために比較的普及したと思われる。訳者は、特定できていない。
- (8) ガブチ・スディ訳 (dga-a bču Sudhi) は、広く普及している。BDRC No. W1EE31、W1EE32 には、*Tib. mnyam med tsong kha pa chen pos mdzad pa'i byang chub lam rim chen mo bzhugs so*, Mong. *sačalal ügei yeke bzongkha ba ber jokiyaysan yeke bodhi mör-ün jerge orusiba*. という同じ題名が見え、翻訳も非常に似ている。しかし、2つはフォリオ数が異なるので別の木版である。翻訳がガブチ・スディ訳 (1812) と若干異なっているため、Aginsky monastery 訳とみなすべきかもしれないが、翻訳全体の構成が、(5)ガブチ・スディ訳 (1812) に非常に似ているところがあるので、その別バージョンと考えた。
- (9) Catalogue of Ancient Mongolian Books (1999) pp. 149-156, No. 00623.
- (10) Catalogue of Uspensky, Inoue (2001) pp. 60-71, No. 2.116-128.
- (11) 羽田記念館に所蔵されている赤字全集は、目録に入っていない。そのため、その存在は来訪者以外にはほとんど知られていない。保存状態も悪く、湿気の影響を受け文字が薄れている。
- (12) 福田洋一、石濱裕美子 1986, p. 107 参照。
- (13) 乾隆帝の父である雍正帝による序文 (1724) が北京版西藏大蔵經に付されている。そこにも同様の事情が書かれている (Catalogue of Ganjuur Danjuur (1749) 御製序文 2b4-24) それによると、チャンキャ全集を、テンギユルに収録するのに、特に依頼者が存在しないこと、ツォンカパ全集は、ビレグト・ノムン・ハンの依頼でテンギユルに収録されたことが確認できる。ビレグト・ノムン・ハンは、当時 23 歳と言う若者であったが、転生ラマであり、モンゴルの全国に行き渡る活動者であった。そのため、雍正帝に対し依頼を出すのに不思議はない人物と考えられる。
- (14) Catalogue of Ganjuur Danjuur (1749) 御製序文 2b5-24.
- (15) Catalogue of Ganjuur Danjuur (1749) 御製続蔵經序 2b16-27.
- (16) Catalogue of Ganjuur Danjuur (1749) 序疏 1b25-2a19.
- (17) Ganjuur Danjuur (2014) p. 241.
- (18) Catalogue of Peking Edition (1962) 第 332 卷 dkar chag II (bstan 'gyur) pp. 206(5)-209(2) 序論 1a-12b 目録 13a-19a.
- (19) Catalogue of Ancient Mongolian Books (1999)、Catalogue of Uspensky, Inoue (2001) に採録されている。
- (20) Catalogue of Peking Edition (1962) 第 332 卷 pp.206.3-209.2 (黄教初祖百千法語総目 12a1-19a32)

- (21) 対応するモンゴル語、Catalogue of ʻanjuur Danjuur (1749) 黄教初祖百千法語
 総目 27a23-27b8: kemekü da a 'gyür erdeni-yin toy-a bičig gegen erike kemegdekü
 egün-i, qosiyun-u erkim qayıqamsıy büged yadayad mongyul-un tör-yi jasaqu yabudal-
 un yamun-u qabsurču dayaysan sayid degedü-yin sidar dotuyadu yeke sayid rasi ba,
 qoyar yosun-u medel sinjilel ayuujiyad angqar-un abqui-dur čing sedkil-iyer kičiyegči
 tamay-a tanu suruysan blam-a sisreb rgyamčo qoyar ene metü nigen-i üiled kemen [27b]
 duraduysan-u yosuyar toyin düri-tü jalaqai vagyadar-a dharm-a samudr-a kemegdekü-
 ber qayan-u yeke qota begejing-ün zandan juu-yin buqar keyid-tür nayirayuluysan-u ...
- (22) ʻanjuur Danjuur (2014) p.863.
- (23) Catalogue of Peking Edition (1962) No. 6171_126.4.
- (24) Catalogue of Peking Edition (1962) No. 6172_126.5.
- (25) Catalogue of Peking Edition (1962) No. 6173_126.6.
 アリルディン ボルマー (ARILDII BURMAA 大谷大学大学院文学研究科博士後期課程第三学年
 国際文化専攻)